



『呼吸臨床』休刊に当たって

編集特別顧問

工藤翔二

（結核予防会複十字病院院長、日本医科大学名誉教授）

『呼吸臨床』が、第9巻6号（2025年6月）をもって休刊することになりました。本誌は、日本初の呼吸器科医のための日本語オープンアクセスジャーナルとして、2017年10月に発刊しました。廃刊となった伝統ある『日本胸部臨床』

（克誠堂出版）の編集にあたってこられた角田優子氏の情熱に応えようと、心ある皆さんが応援団となって発足した本誌のコンセプトは、

「日本語の臨床呼吸器専門誌を守りたい」という願いをもとに、手軽にアクセスできて誰でも読めること、査読制度によってレベルを維持することでした。

発刊から8年、この間に100編の論文が投稿され、94編（レビュー 11、原著10、Letter to the editor 1、症例報告72）が掲載されました。特に、臨床研究の土台であり、スタート地点でもある症例報告の割合が多いことは本誌の特徴をよく表しています。領域別では、びまん性肺疾患 15、画像診断 8、呼吸管理 5、呼吸器外科 5、腫瘍 10、病理 3、免疫アレルギー 21、感染症 27と、呼吸器疾患のすべての領域に及んでいます。



また、多数の「特集論文」、「連載論文」、「週刊連載」が組まれました。特に、「週刊連載」として貫和敏博先生が主宰された「トップジャーナルハック」は、8名の先生方による輪番制によって、ほぼ毎週掲載され2025年6月11日時点でNo.326を数えます。

この度、『呼吸臨床』は処々の事情によって休刊の運びとなりましたが、この間、編集委員長を務められた杉山幸比古先生、査読に当たって下さった編集委員の先生方、論文を投稿して下さった方々、アクセスしてくださった皆様に感謝申し上げます。

■資料

特集論文：論文数56本（2021年4月第5巻3号まで掲載）

特集タイトル

- ・肺疾患のあらたな診断手技としてのクライオバイオプシー（企画：武村民子先生）
- ・「成人肺炎診療ガイドライン2017」を読み解く（企画：川名明彦先生）
- ・日本人が見つけた自己抗原・抗原（企画：宮崎泰成先生）
- ・呼吸器科医に役立つ最先端のメカノバイオロジー研究（企画：寺崎泰弘先生，ゲストエディター：伊藤理先生）
- ・スペインインフルエンザ流行から100年目を迎えて（企画：藤倉雄二先生）
- ・特発性間質性肺炎の診療の現状と将来展望（企画：小倉高志先生）
- ・遺伝子診断を加味した画像診断（企画：楠本昌彦先生）
- ・呼吸機能イメージングの新たな展開（企画：平井豊博先生）
- ・肺移植の適応の拡大とその限界（企画：河野光智先生）
- ・免疫・アレルギー疾患における分子標的薬の使い方（企画：宮崎泰成先生）
- ・今日の薬剤性肺障害の実態（企画：寺崎泰弘先生）
- ・呼吸器疾患とマイクロバイオーム（企画：藤倉雄二先生）

連載論文：論文数38本（2024年4月第8巻4号まで掲載）

連載タイトル

- ・対談：日本語論文の意義と重要性（工藤翔二先生，杉山幸比古先生）
- ・呼吸との出会いと呼吸器との出会い：個人的履歴と呼吸器臨床における「呼吸」の意義（貫和敏博先生）
- ・ホブソンの『内科新説』—幕末のイギリス医学にみる呼吸器疾患（工藤翔二先生）
- ・肺癌画像診断の“勘”どころ～最終診断への道しるべ～（企画：酒井文和先生）
- ・呼吸器内科医のための肺移植の診かた（企画：平間 崇先生）

全論文はJ-Stageにアーカイブされます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokyrinsho/-char/ja>

週刊連載

- ・ほぼ週刊トップジャーナルハック（2025年6月11日時点でNo.326）

アーカイブは下記URLに残ります。

<https://topjournalhack.wordpress.com/>

掲載日：2025年6月20日

© Shoji Kudoh. 本論文の複製権，翻訳権，上映権，譲渡権，貸与権，公衆送信権（送信可能化権を含む）は弊社に帰属し，それらの利用ならびに許諾等の管理は弊社が行います。